

NCNL 図書館だより

No.15 Sep 8 2004

PBLと図書館の活用

教授 野地 有子

『大学は100年先を考えてつくられ、図書館はその大学にとっての心臓です』とは、米国ワシントン大学のスザロ図書館を築いた元学長スザロのことばです。図書館は、大学にとって大変重要であることを、わかりやすく表しています。

本学でスタートしたPBL（問題に基づいた学習）は、3年前期の看護専門領域における演習の一部に導入され、全学的にとりくみ、6領域すべてが終わったところです。PBLとは、「問題（シナリオとしての事例）が提示される→知る必要のある事柄を確認する→それを学習する→それを適用するプロセス」で展開されます。このアプローチを最大限に活用するために、図書館の活用がカギとなります。今回のPBLでも、図書館の利用の仕方は、さまざまであったことと思います。学生の感想で印象深かったことは、「いままで本は沢山読んできたけれど、今回ほど本と深くつきあったことはなかった。こんなふうに深く勉強できて嬉しい！」というものです。私は、PBLのチュータを担当していた期間中は、図書館で事

例に関係する闘病記を読みました。いろいろな闘病記が出版されていて、病気の体験について医療者の視点とは違った迫力ある内容のものが多く、病に対峙した時に人間はどのように反応し、どのように受け止めていくのかが具体的に伝わってきます。

PBLでは、「自分の学びたい内容を重視するのではなく、まず第一に自分が学ぶ必要のある内容を重視し、問題を解決するために焦点をあてる必要のある課題を重視すべきである」といわれています。そこで、学ぶ必要のある内容を探すためにも、図書館の活用が助けになります。膨大な資料の前に、何をどこから調べはじめたらよいか戸惑う場合もあるでしょう。また自分の求めている情報に出会えない場合もあるでしょう。図書館には図書館司書という、情報探索の専門家がおられるので、相談しながら一緒に探していくという方法もあります。アメリカの大学では、特にこのサービスが充実しています。本学においても、図書館を有効に活用して、私達の大学の心臓、ハートにしていきたいと思います。



※ PBL : Problem Based Learning の略

PBL授業風景

連載企画 1. 書評

J.ブルーナー著／岡本夏木・仲渡一美・吉村啓子訳

『意味の復権 - フォークサイコロジーに向けて - 』ミネルヴァ書房 1999

助教授 堀 良子

J.ブルーナーの名前は1963年に初版された『教育の過程』の著者として、ご存知の方も多いのではないだろうか。彼はハーバード大学の心理学者でアメリカの教育改革運動に参加し、Piaget理論に基づいて、知的構造の重視、ラセン型カリキュラムや発見学習の提唱等を“The Process of Education”にまとめ教育界へ強いインパクトを与えた。筆者が教育の道に入りたてのころ「学習レディネス」や「直感的思考と分析的思考」など、この本の用語が盛んに使われていたことを思い出す。1950年代に人間科学において求められた「認知科学」はその後「情報処理」や「計算可能性」が認知の中心課題となっていく中で、最初のスピリットに立ち返り、認知科学が捨象してきた「意味」の問題を探求することが人間本来の研究に戻る「再革命」であると著者は考え、文化心理学として結実させた。「意味」は個人の中だけでなく、人間が生きる世界の中において「文化的」に形成されてきたものであり、人はそれを共有して生活している。そして人間は因果関係で説明できるものでなく、歴史と文化による心の形成をもって解釈する存在であるとしている。本書は専門家でない人間にとっては、訳本であることも加味されてや

や難解であるが、第3章、第4章とある家族のストーリーを題材にして展開される頃には本の中にすっと入って、なるほどと思っている自分に気づかされる。

看護学を構成する中心概念の一つに「人間」が挙げられるが、看護において人間を理解するという時、「生のストーリーは、ある特定の人に向かって語られる時、深い意味において、語る者と語られる者との共同の産物であることは明らかである。自己は、実在性というものについてどのような形而上的立場をとろうとも、語る者と語られる者との間の交渉の中にのみ明らかにされるのである」と述べているように、理解しようとする者の在り様が大きく影響することを改めて考えさせられる。また、看護は対象となる患者を全人的に理解するというが、目の前に居るその人の姿や状態を平面的に切り取って理解するというだけでなく、文化的に形成された歴史の中で現在を生きている存在の意味を解釈する観点をもつべきである。これらから、本書は看護学にとっても大変示唆に富む著書である。

(ISBN : 4-623-03018-0)

現在品切れのため残念ながら図書館には入っていません。上越市立図書館にあります。)

2003年度図書館利用統計

	2002年度	2003年度	増減
開館日数	272日	272日	0日
入館者総数	65,362人	47,010人	-18,352人
貸出総冊数	12,574冊	13,146冊	+572冊
学外利用者総数	1,255人	1,434人	+179人
学外者貸出総冊数	780冊	1,212冊	+432冊

2002年度途中から、図書館まで行かなくてもインターネットで医学中央雑誌や図書館の蔵書検索ができるようになったこともあり、入館者は昨年度の70%となりましたが、貸出総冊数は微増となりました。

学外者の利用は増加しており、特に貸出冊数は1.5倍となりました。

お気に入りの場所

私が図書館を利用する主な目的はレポート作成のための資料探しですが、テスト前になると勉強のためにも利用します。資料探しに関しては、OPAC を使いキーワード一つで関連する資料の名称をいくつか見つけ出し、その情報に基づき本棚に足を運んでお目当ての本を手にとることができます。OPACのおかげで、欲しい資料を求めて本棚の前にベッタリと張りついて、長時間格闘することはありません。

日々の学習に欠かせない存在の図書館ですが、実は私にとって学内で1、2位を争うお気に入り

のスポットでもあります。なぜなら図書館は全面ガラス張りの造りで、2階からは眼下に関川、遠くに妙高山といった自然のパノラマが広がります。図書館に来ると、レポートやテスト勉強で疲れた頭のリフレッシュとかこつけて、ボンヤリと外の景色を眺めて時間を過ごしてしまうことがよくあります。

学習目的で利用することが多い図書館ですが、時にはこの景色を眺めながら、何も考えずにのんびり読書する贅沢な時間を過ごしてみたいと思っています。

大学 2年生 川口 裕里

すばらしい仲間(本たち)との出会い

人間にも「性格」が存在するように、本にもさまざまな「性格」が存在するだろう。専門的な言葉を使って詳細に教えてくれる人、要点を簡潔に伝えてくれる人、どちらも私にとってすばらしい出会いであり、いつも私を助けてくれる尊い仲間である。だが自分の求めている本を探すというのは大変なことでもある。私たちは現在さまざまな情報に囲まれ、その中で暮らしている。さまざまな情報にもまれ、自分の考えさえ見失いそうになる。そこで私のすばらしい仲間との出会いを支えてくれるのが図書館の検索システム(OPAC)だ。

3年生になり「PBLチュートリアル」などの専門的な学習を行う際に、いかに自分の今求めているテーマを探し出すのかということが必要になった。そこで図書館の検索システムが非常に役に立った。特に過去の看護や医療に関する雑誌を探す際に、内容細目を見ながらより適切な本を見つけることができる。本との出会いが苦手だった私にもこのような機会を与えてくれる検索システム(OPAC)に感謝し、これからも活用していきたいと思う。

大学 3年生 山崎 将太

OPAC・医学中央雑誌を利用して

短大に入学して、初めて助産学研究の講義の中でOPACの存在を知りました。知ったことで、私の文献検索は、これまでとは大きく変わりました。OPACを使用することで、検索が短時間に出来るようになっただけでなく、多くの図書が検索できるようになったのです。

また、医中誌を使用することで、過去の論文を検索することができ、その場で論文要旨が確認できるものもあり、文献を選択するのにとても便利です。医中誌では図書として発行されていない最新の論文も2週間おきに更新されるので、タイム

リーな情報を得ることもできます。

現在、助産学研究のテーマを絞り込み中の私にとっては、自分の興味がある文献が一目で分かり、役立っています。

これまで、図書館に行っても自分が探している図書や論文を探し当てることができず、諦めていたのが嘘のようです。すでに利用されている皆さんも多いと思いますが、大いに活用して、今後もレポート作成や研究を効率的に進めていきましょう。

短大 助産学専攻 仙 夕香

図書館から一言・・・OPACとは、Online Public Access Catalog (オンラインでの図書館蔵書検索システム)の略です。また、医中誌こと医学中央雑誌は日本国内最大の医学文献データベースです。文献検索講習会を行ったこともあったか、今回はテーマがOPACに集中しました。講習会のもようは次ページをご覧ください。

<<<文献検索講習会を開催しました>>>

今年度前半、下記の通り、図書館で文献検索講習会を開催しました。

対象	日付	備考	参加人数
大学3年生	4/13	PBLチュートリアルに関連した文献検索講習会	90名
短大助産学専攻	6/3	授業「助産学研究I」の一環	10名
短大地域看護学専攻	6/7	授業「地域看護学研究」の一環	38名
学内者・学外者	7/12・13・14・21	初級・中級編(片方だけの参加可)	70名
新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習生	8/24	本学で開催の講習の一環	50名

内容は、本学図書館資料の探し方(OPACの使い方)、他の図書館の資料の探し方・利用方法、医学中央雑誌など雑誌論文の探し方などで、司書が講師をつとめ、各1時間半～2時間で行いました。

7月の講習会は、当館の利用者の多い病院および新潟県病院図書室研究会加盟館にもお知らせしたところ、たくさんのご参加をいただきました。ほとんどが看護師の方のようでしたが、図書室担当など事務系の方にも何名かおいでいただきました。

希望の方には講習の前に、館内見学・説明を行い、こちらも多くの方にご参加いただきました。

下記に、学外の参加者の方からの声を掲載いたしました。地域に貢献する図書館として、今後も学内はもちろん、学外者に対してのサービスにも取り組んでいきたいと思っております。

文献検索講習会に参加して

立川総合病院 図書室担当 相澤 希

7月14日に新潟県立看護大学図書館で行われた文献検索講習会に当院職員数名と参加させていただきました。学生、県立中央病院の職員の方など20名程がそれぞれにパソコンの前に座り、操作を確認しながら検索の指導を受けることができ、とても分かりやすかったと当院職員も大変喜んでおりました。私も日頃の業務を再確認することができ、大変有意義でした。

当院では、毎年看護研究の度に文献検索・取り寄せの依頼が殺到しますが、設備面の問題もあり、なかなか看護師に文献の検索方法を指導することはできません。しかし今回参加させていただいたことにより、本人が検索することの大切さを実感できたように思います。貴図書館において学外利用者も含めた講習会を開いていただけることは、病院図書室担当者にとっても心強い限りです。今後も講習会等がありましたら参加させていただきたいですし、私達にとって貴図書館がさらに身近な存在となつて下さいますよう、心から願っております。

図書館新人職員のごあいさつ

非常勤職員 金子美奈(かねこ・みな)(9-16時勤務)

こちらで、勤務させて頂く事となり早いもので5ヶ月になります。

図書館業務は、初めてでまだまだ不慣れな点が多いかと思いますが、利用者の皆様により良いサービスが出来ます様、微力ながら努力していきたいと思っております。

夜間・土曜嘱託員 能登宏男(のと・ひろお)

男ばかりで機械や数字相手の職場を定年まで勤め、再就職先を探すこと2年、漸く、今の仕事に巡り合えました。全く違った職種での再出発の為、失敗や失礼をし、周りの人に迷惑の掛け通しです。こちらに来ての驚きは皆さんの勤勉さです。そこで、私の仕事は「快適な環境作り」と任じました。

使っていますか？ 図書館のこんなサービス

その1 返却ポストをいただきました

昨年度の短期大学第9回卒業生、第7回修了生から、卒業・修了記念品として返却ポストを寄贈していただきました。

図書館閉館時にエントランスホール奥に置いてあります。

1時間目の授業が始まる前、図書館が閉まった後、このポストにご返却ください。



その2 禁帯出資料の一夜貸しができます

禁帯出の赤いラベルがついている資料や最新号の雑誌でも、閉館30分前から翌開館時間まで貸出ができます。カウンターでお申込みください。※視聴覚資料は対象外です。

その3 地域資料、本学資料コーナーをご活用ください

後期、実習などで地域の病院や施設、市町村にお世話になる機会も増えるかと思えます。「地域資料コーナー」には、新潟県に関する資料を揃えています。新潟県の統計書、各健康福祉環境事務所や病院の年報類などもあります。どうぞご利用ください。

近くの上越市立高田図書館にも郷土資料コーナーがありますので、そちらものぞいてみてください。

なお、新潟県に関する情報としては、図書館ホームページのリンク集「地域情報」にも関連サイトをまとめてあります。こちらもご利用ください。

隣の「本学資料コーナー」には、過去の実習レポートなどもあります。

場所は1階一番奥の壁際（紀要棚隣）、禁帯出のシールが貼ってあるもの以外は貸出できます。

その4 リクエスト、取り寄せサービス

探している資料が図書館になければ、あきらめていませんか？図書館にはこんなサービスがあります。

(1) リクエスト

申込用紙と箱は図書館の入り口にあります。毎月の図書委員会で購入の可否を検討し、掲示します。なお、一般書（小説など）は、上越市立図書館もご利用ください。

(2) 取り寄せサービス

他の図書館から必要な資料を取り寄せることができます。送料・複写料金等は実費負担になります。図書館カウンターでお申込みください。

その5 新聞記事を探したい時・・・

あの記事、確かに見たはずんだけど・・・と新聞を何日分もめくった経験はありませんか？当館では読売新聞記事検索データベース「ヨミダス」を契約しています。図書館ホームページリンク集の新聞記事検索からご利用ください（学内限定です）。

なお、インターネット上で無料で記事が検索できる新聞を図書館ホームページのリンク集にまとめてあります。ぜひお使いになってみてください。

図書館では新潟日報・上越タイムス・朝日新聞・読売新聞・毎日新聞・DAILY YOMIURI の6紙を購入、3年保存しています。前日発行以前の今年の方は移動式書架にあります。

昨年、一昨年発行分は閉架書架にありますので、カウンターでお申込みください。

寄贈者名簿(2003年12月-2004年8月受入分)

下記のみなさまに図書をご寄贈いただきました。大変ありがとうございました。(五十音順 敬称略)

<あ行>

会津大学
会津大学短期大学部
秋山智哉
有森直子(聖路加看護大学)
医学芸術社
医学書院
稲田明夫
愛媛県立医療技術短期大学
蝦名美智子(神戸市看護大学)
園城寺康子(聖路加看護大学)
大阪市立学術情報総合センター
大阪女子大学
岡山県立大学
岡山県立大学短期大学部

<か行>

神奈川県立衛生短期大学
鹿屋体育大学
河原和夫(東京医科歯科大学)
北里大学附属北里保健衛生専門学院
京都大学医学部
京都大学医療技術短期大学部
京都大学高等教育研究開発推進センター
岐阜市立女子大学
熊本県立大学
敬和学園大学人文社会科学研究所
高知女子大学看護学会
高知女子大学看護学部
高知女子大学保育短期大学部
神戸市外国語大学
高齢者痴呆介護研究・研修東京センター
国際学園
国際連合大学
国立国語研究所
国立大学入学選抜研究連絡協議会
国土地理協会
こども未来財団

<さ行>

済生会
埼玉県立大学
齋藤訓子(日本看護協会)
佐々木美佐子
滋賀県立短期大学
自治医科大学看護学部
島根県立島根女子短期大学
社会経済生産性本部
順天学園
順天堂医療短期大学
上越教育大学
上越市
上越市役所
人権教育啓発推進センター
水流聡子(東京大学大学院工学系研究科)
総務省統計研究所
セコム科学技術振興財団
洗足学園
総務省統計研究所

<た行>

竹内敏晴
田村憲治
大学基準協会
大学評価・学位授与機構
千葉大学看護学部
長寿社会開発センター
筑波大学産学リエゾン共同開発センター
都留文化大学
東海大学
東北大学
富山医科薬科大学

<な行>

内外学生センター
中島紀恵子
長岡赤十字病院
長岡短期大学
長崎大学医学部
長野県看護大学
名古屋市立女子短期大学
名古屋大学医学部保健学科
奈良県立大学
新潟県
新潟県糸魚川健康福祉事務所
新潟県柏崎健康福祉事務所
新潟県看護協会
新潟県教育庁総務課
新潟県教育庁保健体育課
新潟県国民健康保健団体連合会
新潟県産業労働部労政雇用課
新潟県三条健康福祉環境事務所
新潟県新発田健康福祉環境事務所
新潟県上越健康福祉環境事務所
新潟県女性財団
新潟県総合政策部市町村課
新潟県総合政策部地域政策課
新潟県総合政策部統計課
新潟県成人病予防協会新潟県体育協会
新潟県十日町健康福祉事務所
新潟県病院局
新潟県福祉保健部
新潟県巻健康福祉事務所
新潟県村上健康福祉事務所
新潟県村上地域振興局健康福祉部
新潟県六日町健康福祉環境事務所
新潟県立看護大学FD委員会
新潟県立中央病院附属看護専門学校
新潟県立図書館
新潟県国際交流協会
新潟国際情報大学
新潟産業大学
新潟青陵女子短期大学
新潟大学
新潟大学医学部附属助産婦学校
新潟大学院現代社会文化研究科
二階堂学園
日本医療情報学会
日本衛生検査所協会
日本看護学教育学会研究プロジェクト
日本看護協会
日本看護協会出版会
日本看護系大学協議会
日本障害者高等教育支援センター
日本私立看護大学協会
日本赤十字武蔵野短期大学
日本篤志献体協会
日本図書館協会
日本難病看護学会
日本福祉大学
日本リハビリテーション看護協会
日本老年医学会
日本ユネスコ協会連盟
ヌーヴェルヒロカフ

<は行>

兵庫県立看護大学
ファイザーヘルスリサーチ振興財団
福岡女子大学
藤田保健衛生大学衛生学部
放送大学学園
北海道大学

<ま行>

松田慎也
丸山美知子
宮崎公立大学
武庫川学院
文部科学省
文部科学省国際開発協力
サポート・センタープロジェクト
文部科学省生涯学習政策局
メディカ出版
メディクメディア

<や行>

山形大学医学部看護学科卒業生調査班
山梨県立女子短期大学
山本あい子(兵庫県立看護大学)
山本淳子
横浜市立大学看護短期大学部
薬害HIV感染被害者(遺族)
生活実態調査委員会
吉山直樹

<アルファベット>

IDE(民主教育協会)
TECOM

<新規受入紀要>

秋田県立大学総合科学研究彙報
安全医学/
日本予防医学リスクマネジメント学会
岡山県立大学保健福祉学部紀要
看護研究/新潟県立がんセンター新潟病院
看護研究集録/けいなん総合病院看護部
看護研究集録/新潟県小出病院
看護研究集録/長岡赤十字病院
看護研究発表集録/新潟県立中央病院看護部
京都大学高等教育研究
岐阜県立看護大学紀要
研究紀要/びわこ成蹊スポーツ大学
高知女子大学看護学会誌
高等教育ジャーナル/
北海道大学高等教育機能開発センター
埼玉県立大学紀要
情報教育方法研究/私立大学情報教育協会
上武大学看護学研究所紀要
人文社会科学研究所年報/敬和学園大学
大学入試ジャーナル
大学入試研究の動向
新潟県放射線監視センター年報
新潟県立吉田病院研究・業績集
長岡赤十字病院医学雑誌
長岡大学地域研究センター年報
人間看護学研究/滋賀県立大学人間看護学部
保健師活動実践集/
二市北蒲原郡行政保健師連絡会
福岡県立大学看護学部紀要

図書館だより 第15号
2004年9月8日発行
編集：図書委員会
発行：新潟県立看護大学図書館
・短期大学図書館
〒943-0147上越市新南町240番地
TEL(025)-526-1169(直通)
E-mail tosyo@niigata-cn.ac.jp
URL http://lib.niigata-cn.ac.jp/